

同時発表：青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ、  
奈良県政記者クラブ

平成28年1月14日  
総合政策局安心生活政策課

## 第2回「オリンピック・パラリンピックを見据えた観光地の バリアフリー化の評価に関する検討会」の開催について

2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、更なる増加が見込まれる外国人観光客を地方に誘客していくための方策の一つとして、地方の観光地のバリアフリー化を通じた受入環境の持続的向上を図ることが重要です。しかし現状、観光地においてバリアフリー化の指針や情報提供のあり方が明確ではなく、移動制約者にとってそれぞれの観光地がどの程度バリアフリー化されているのか、また、どのようなバリアが存在するのかの比較・検討をすることは困難な状況にあります。

そのため、国土交通省では、近年外国人観光客の増加が著しい観光地の中からモデルとなる地域（奈良県、富山県、石川県）を選定し、実地調査を通じて観光地におけるバリアフリーに関する情報の収集・分析等を行い、多様なニーズに対応できるバリアフリー評価指標を作成し、全国の観光地へ普及させていくための27年度調査研究を実施しております（調査研究の概略等については別紙1及び2参照）。この調査研究に当たっては、有識者、観光関係者、地方自治体等で構成する検討会を設置して検討を進めておりますところ、この度、第2回の検討会を以下のとおり開催いたします。

### 記

1. 日時：平成28年1月18日（月） 16:00～18:00
2. 場所：大阪合同庁舎4号館10階 海技試験室（大阪府中央区大手前4-1-76）
3. 議題（案）：
  1. 中間報告（現地調査等）
  2. 意見交換
4. 協議会の構成員名簿：別紙3のとおり
5. その他
  - ・本検討会は公開で行いますので傍聴・取材が可能です。傍聴・取材を希望される方は、1月15日（金）17:00までに下記の問い合わせ先までご連絡下さい。
  - ・カメラ撮りを希望される方は、当日15:45までに会場前にお集まりください。
  - ・撮影は、進行の妨げにならないよう御配慮願います。

#### <問い合わせ先>

国土交通省総合政策局安心生活政策課 奈良、丸山、渡部  
TEL：03-5253-8111（内線25-518、25-504）  
03-5253-8306（直通）  
FAX：03-5253-1552

○2020年東京大会の開催、更にはその先の超高齢社会への対応という観点から、全国的により高いレベルのバリアフリー化を進めていく必要がある。  
 ○しかし現状、地方の観光地においてバリアフリー化の指針や情報提供のあり方が明確ではなく、移動制約者にとっては、地方の観光地がどの程度バリアフリー化を進めているのか、また、どのようなバリアが存在するのか、比較・検討することは困難な状況である。  
 ○こうした状況を踏まえ、既存情報の把握や現地調査を通じて多様なニーズに対応できるバリアフリー評価指標を作成し、観光地におけるバリアフリー情報提供のあり方や、全国の観光地への普及方策等について議論を行う。

## 調査概要

### <調査方針>

#### ①観光地・観光施設の特徴を考慮

・観光地・観光施設においては自然資源や歴史資源の保全が求められることも多く、画一的なバリアフリー化を促すことは難しいことに留意。



#### ②ソフト面の対応の重要性を考慮

・ハード面の対応だけではアクセシビリティの改善が困難な場合は、人的対応等ソフト面の対応によるカバーが重要。



#### ③多様な観光客のニーズに対応する指標を検討

・様々な特性を持った観光客のニーズに応えるには、一律の基準化は難しいため、本当に欲しい情報を把握し、現況を正確に分かりやすく伝えるという観点が必要。



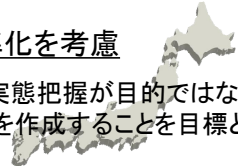
#### ④情報の鮮度を考慮

・情報が古いままのバリアフリー情報は有害になることがあるため、情報の鮮度も重要な指標としてとらえる。



#### ⑤評価指標の汎用性・標準化を考慮

・本調査における現地調査の実態把握が目的ではなく、全国の各観光地域で使用できる指標を作成することを目標とする。



### <業務概要>

#### a.事前調査等の実施

・全国の主要な観光地のバリアフリー情報を収集・分析

#### b.対象エリアにおける現地調査の実施

・拠点駅等からの観光地アクセス、周辺施設、宿泊施設等の現状調査。



#### c.バリアフリー化指標の検討

・aおよびb(既存資料や今回対象エリアの調査結果)に基づき、バリアフリー化の状況の評価する指標を検討する。

#### d.検討会の開催

・a～cの検討を行うにあたって、有識者、国、自治体、交通事業者等による検討会を開催し、評価指標を取りまとめる。

### オリパラを見据えた観光地のバリアフリー化の評価に関する検討会

第1回  
(11/11)

業務の全体計画・  
進め方、調査対象  
の設定

第2回  
(1/18)

全国の既存情報の  
整理結果、対象観  
光施設等の現状、  
指標案の検討

第3回  
(3月中旬)

バリアフリー化指標  
の検討

モニター調査実施

## とりまとめ (3月)

○アクセシブルな観光地の条件を抽出し、評価のあり方、指標のあり方をとりまとめ

アクセシブルな観光地の  
評価指標

### <活用イメージ>

- ・旅行前の比較検討手段として
- ・他の観光地の整備目安として

奈良公園

※イメージ



(写真提供：一般社団法人奈良県ビジターズビューロー)

観光地・施設区分	対象	評価
観光施設	段差、トイレ、通路、...	○
飲食施設	段差、トイレ、通路、...	◎
宿泊施設	段差、トイレ、通路、...	◎
駐車場	段差、トイレ、通路、...	...
...	...	...

## モデル調査対象地域について (奈良県、石川県、富山県)

### 1. モデル調査対象地域について

オリンピック・パラリンピックを見据え、多様な観点からの評価指標の検討を進めるため、近年外国人旅行者の増加が著しく、かつ、エリア内に地理的、地形的にも多様な観光スポットが存在する地域を選定した。

○奈良県・・・近年外国人旅行者が急増する一方、宿泊施設自体の不足という課題や、寺社仏閣など歴史資源の保全のため一律に整備することが困難な観光施設が多数存在。

○石川県、富山県・・・北陸新幹線金沢駅の開業等によって国内外からの観光客数が急増する一方、観光施設が分散しており、アルペンルートなど移動の観点からは厳しい地理的条件の観光地が存在。

### 2. 調査スケジュール

○平成27年11月～現在

奈良県（奈良市内）、富山市内、立山黒部アルペンルート 等

○1月中旬（予定）

・飛鳥周辺駅

・飛鳥周辺及び橿原駅

・金沢市内エリア

・富山駅及び周辺ホテル、富山城 等

○1月下旬（予定）

・飛鳥周辺

・金沢市内エリア

・富山市内エリア 等

○2月上旬（予定）

・奈良県フォロー調査及びアクティビティ（人力車等）調査

・橿原周辺

・石川県、富山県フォロー調査 等

# 「オリンピック・パラリンピックを見据えた観光地の バリアフリー化の評価に関する検討会」構成員名簿

(敬称略 ○：座長)

## 《有識者等》

○三星 昭宏 関西福祉科学大学 客員教授  
 中村 元 特定非営利活動法人日本バリアフリー観光推進機構 代表  
 石塚 裕子 大阪大学 未来戦略機構 第五部門  
 未来共生イノベーター博士課程プログラム 特任助教  
 山名 勝 特定非営利活動法人 D P I 日本会議 交通部会  
 澤田 大輔 公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団  
 バリアフリー推進部 企画調査課担当課長

## 《現地観光協会等》

見角 要 立山黒部貫光株式会社 取締役運輸事業部長  
 坂井 さゆり 特定非営利活動法人 石川バリアフリースターセンター 理事長  
 葛本 雅則 一般財団法人 奈良県ビジターズビューロー 理事・事務局長

## 《地方公共団体》

漆畑 有浩 富山県観光・地域振興局長  
 岡 譲 石川県 健康福祉部 厚生政策課長  
 林 成光 奈良県 地域振興部 観光局 観光プロモーション課長  
 土村 誠二 金沢市経済局 営業戦略部 観光交流課長  
 水高 清志 富山市商工労働部 観光振興課 課長  
 藤田 雅弘 奈良市市民生活部交通政策課長

## 《国土交通省》

松本 勝利 国土交通省 総合政策局 安心生活政策課長  
 西海 重和 国土交通省 観光庁 観光産業課長  
 小口 浩 北陸地方整備局 企画部長  
 瀬井 威公 北陸信越運輸局 交通政策部長  
 近田 正一 北陸信越運輸局 観光部長  
 小林 稔 近畿地方整備局 企画部長  
 阿部 竜矢 近畿運輸局 交通政策部長  
 阪部 光雄 近畿運輸局 観光部長